

開会のご挨拶



後山 尚久 先生

大阪医科大学健康科学クリニック寄附講座
(未病科学・健康生成医学)

- 1979年 大阪医科大学 卒業
- 1981年 同大学 産婦人科学 助手
- 1983年 国立島根医科大学 第一生化学 助手
- 1989年 米国オクラホマ州立大学 生化学・分子生物学
Physical Science II 部門教官
- 1993年 大阪医科大学 産婦人科学 講師
- 1996年 同大学 産婦人科学 助教授
- 2003年 大阪市立大学 女性病態学 講師(非常勤)兼務(～2006年)
- 2004年 The Editorial Board of American Journal of
Chinese Medicine
- 2006年 京都大学 漢方医学講義 講師
- 同 年 藍野学院短期大学 教授
- 2009年 大阪医科大学健康科学クリニック 寄附講座
(未病科学・健康生成医学)教授
- 同 年 日本東洋医学会関西支部 支部長
- 2011年 大阪医科大学健康科学クリニック 所長

例年同様に、本年も東洋医学シンポジウムを皮切りに、第63回日本東洋医学会学術総会が始まります。本シンポジウムも19回目の開催を迎え、今や長寿のプログラムとなりました。

われわれの医療は、国際的にも標準医療である西洋医学を基軸としていますが、さらに多くの先人が培ってこられた漢方医療も使うことができます。経済的にも安価であり、臨床的なエビデンスが揃っている漢方医療を西洋医学と一緒に用いることができるという非常に素晴らしい医療体系を持つわが国は、まさに最高級の医療を患者さんにご提供できる環境にあります。

今回は、例年に優るとも劣らない真の医療人である5名のシンポジストをお招きし、教科書にも記載されておらず、よく知られている口訣にもない、現代医学を実践している医師ならではの漢方薬の使い方をご紹介します。また例年、素晴らしいコメントをいただいている峯尚志先生には、今回もコメンテーターとしてご登壇いただき、発表内容への有益なコメントをいただき、症例の臨床経過と考察をシンポジストとともに掘り下げたいと思っています。

本シンポジウムに参加していただくすべての先生方には、診療現場において理想的な形で漢方医療を組み入れていただき、治療成績の向上が患者さんの苦しみの軽減と幸福の構築につながることを希望しています。